

ごみ拾い活動で 「荒川に自然を」

都内NPO
報告集発行

荒川でごみを拾って自然を戻す活動をしているNPO法人「荒川クリーンエイド・フォーラム」(東京都江戸川区、佐藤正兵代表理事)は、二〇一〇年の活動や調査結果などをまとめた報告集を発行

した。写真。

昨年、流域周辺の百十会場でごみ拾いを実施。市民団体や自治体、企業などから一人を超える参加があった。

九月から十二月にかけては、近年急増しているペットボトルのごみに焦点を当てて調査。回収したごみ全体の約二割がペットボトルで、種類別にみると、

品目別生産量と比較すると、荒川のごみは生産量の割合とほぼ一致。都市で消費されたごみを荒川が反映していることもわかった。一一年は、ごみの10%削減を目標に、企業と連携し「マイボトル」の普及を進めていく。

同フォーラムの糸岡栄博事務局長は「荒川から日本の消費社会の現状が見えてくる。マイボトルを持つという、誰でも気軽に参加できる仕組みを荒川から全国に発信し、ごみの抑制につなげたい」と話している。

お茶と水を合わせて五割を超えることが判明した。また、全国のペットボトルの

荒川クリーンエイド 2010 報告集



荒川で
とことこ
ちよいと
いいごみ
拾い



(磯部旭弘)